

第三者評価結果

A-1 保育内容

A-1-(1) 保育課程の編成

| | | 第三者評価結果 |
|---|--|---------|
| 【A1】 | A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している | a |
| <p>・全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針の趣旨に則り、「のびのび、すくすく、にこにこ」を保育理念に、保育方針と保育目標を掲げて作成している。子どもの発達過程を踏まえて、主体性を大切にした養護と教育を一体とした保育を考慮して編成している。</p> <p>・全体的な計画は、年度末の会議で話し合い後に園長が作成し、それをもとに担任が各クラスの年間指導計画を編成している。さらに全体的な計画をもとに、各クラスの年間指導計画から月計画、週案に落とし込んでいる。</p> <p>・定期的に計画と実践の振り返りを行い、年齢ごとや全体の保育計画に沿っての反省、改善点を見つけ次へと繋げている。</p> | | |

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

| | | |
|--|---|---|
| 【A2】 | A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している | a |
| <p>・保育室は定期的に窓を開けて換気し、エアコンや空気清浄機、加湿器を使用して温度や湿度を調節し心地よく過ごせる環境作りを心がけている。冬季は湿度40%以上を目安に感染症対策を対策を講じている。</p> <p>・室内にソファやクッション、マットなどを敷き、子どもたちが落ち着いて過ごせる空間を作っている。家具は危険のないように段ボールで手造りしたり、ぶつかっても危なくないように補強して安全対策を講じている。</p> <p>・押入れをひとつの室内とみなして、絵本を読むコーナーにしたり、くつろいだり、横になったりするスペースとして使用し、クルドダウンが必要な場所としても活用している。</p> <p>・手洗い、トイレは子どもが利用しやすい丸みをおびた安全を施し、トイレには子どもが興味を示しているマークを貼り、行きたい、座ってみたいという環境作りをするなどの工夫をしている。</p> | | |

| | | 第三者評価結果 |
|---|--|---------|
| 【A3】 | A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている | a |
| <p>・子どもの個人差を十分に把握し、その都度子どもの思いを受け止めて、子どもが納得して次の行動に移れる様な関わりを目指している。保育方針である、「安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを求めあいながら生活します。」をもとに、子どもが自分の気持ちを表現できるように、まずは関係性を深めることを大切にして援助している。</p> <p>・月齢や個人差による発達や活動の内容を見極め、2歳児クラスでは高月齢と低月齢で分け、低月齢は1歳児クラスと、高月齢は3歳児と散歩に行くなど、クラスを越えた活動などを実施している。</p> <p>・マルチトリートメントや当たり前を見直す研修を毎月行い、子どもへの声掛けの仕方や連携が生み出すスムーズな保育などを事例を通して話し合い、子どもを肯定する言葉や態度、気持ちが満たせるような関わりを心がけている。</p> | | |

| | | |
|--|--|---|
| 【A4】 | A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている | a |
| <p>・子ども一人ひとりと向き合い、それぞれの発達と気持ちを見極めて、生活に必要な基本的な生活習慣が身につけられるよう援助している。食事や排泄、着替えなど日常的に援助する中で、子どものやりたい気持ち、主体的な意欲を尊重し、自分でやり遂げた満足感、達成感を子どもと共有して出来たことを伝え、子どもが肯定感を持つことが出来るよう支援している。</p> <p>・基本的な生活習慣を身につけるにあたり、どうして必要なのかを分かりやすく繰り返し伝え、年齢や個々の様子によっては一緒にやってみたり、イラストなど使ってより分かりやすく視覚から伝えられるよう工夫するなどの環境作りをしている。</p> | | |

| | | |
|---|--|---|
| 【A5】 | A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している | a |
| <p>・天気のよい日は戸外へ出かけ、公園や園庭で遊ぶ時間を毎日確保するようにしている。雨天時は室内で身体を動かせるように巧技台やジャンピングマットを設置したり、ゲームや絵本などから取り入れた表現遊びなどをして体を動かすことができる環境を作っている。また、公園で見つけたかたつむりや青虫などを園に持ち帰り、飼育を通して命の大切さを学ぶ機会としている。</p> <p>・自分で好きな遊びが選べるように様々な遊びコーナーの設定をし、玩具はいつでも子どもが使えるように設置して自由に遊びを選べるようになっている。絵本は各クラスで子どもが手に取りやすい高さに配置して様々なジャンルの絵本などを揃え、クラス以外にも絵本コーナーを設けて子どもの発達や興味関心に対応できるようにしている。また、家庭から提供してもらったお菓子の箱や毛糸の残りなどを一つの箱に入れて、自分の使いたいもので工作するなどの工夫をしている。</p> | | |

| | | |
|--|--|---|
| 第三者評価結果 | | |
| 【A6】 | A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | a |
| <p>・入園時の面談では保護者、園長、栄養士、担任の4者面談を実施し、家庭での授乳や離乳食の状況を聴き取り、一人ひとりの成育歴や生活リズムを把握して、保護者と連携した保育に取り組んでいる。また、登校園時やクラスだより、連絡ノートなどで常にどんなことで遊んだのか、喫食状況などを共有できるように努めている。</p> <p>・保育室はパーティションを使用して、食事や睡眠がゆったりできるスペースを確保している。おもむつの交換は部屋のすみの決まった場所で行い、活動の場所と区別するなどの配慮をしている。</p> <p>・子どもが興味を持てる装飾を月ごとや発達段階に応じて作成してクラス内に取り入れ、手遊び、絵本、歌をなど一緒に楽しみ、好きなものや興味のあるものに触ったりつかんだりする経験を、安全に配慮しながら積極的に取り入れている。</p> | | |

| | | |
|---|---|---|
| 【A7】 | A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | a |
| <p>・子どもが安心感を持ちながら探索活動が十分できるようにして、興味を広げ自分でやりたいという気持ちを育てるよう支援している。玩具は手の届く所に設置して、子どもが好きな玩具を自分で選んで、自由に楽しんだり遊び込める環境を作り込みに努めている。また、職員も関わって遊びが広がるようにしたり、新しい遊びを取り入れていくように工夫し、その中で友だちとのつながりも大切にしている。さらに、絵本や遊びを通して、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲を育むよう支援している。</p> <p>・合同保育や異年齢児の散歩を取り入れて、異年齢の友だちと遊ぶことで、成長していくことへの期待感をもつ機会としている。子ども同士のトラブルでは、子どもの自我の育ちを見守り、職員は子どもの気持ちを受け止めて相手にはどんな思いがあったかを伝え、中立的な立場で仲立ちをしている。</p> | | |

| | | |
|--|---|---|
| 【A8】 | A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | a |
| <p>・3歳児は、成長に合わせて玩具の入れ替えを行っており、その時に子どもたちが興味のある遊びができるようにしている。職員は見守りながら、時には加わって遊びを展開させているなど援助している。</p> <p>・4歳児は、得意なことや遊びが個々で違うため室内空間を広げて様々な玩具のコーナーを作っている。職員は個々に出来たことを認め、自信がつくような声掛けをしている。また、5歳児との合同ということもあり、異年齢児の遊びに加わり遊びを楽しんだり同年齢の友達と興味あるものに取り組んだりと楽しめる環境づくりに努めている。</p> <p>5歳児は、仲の良い友達を誘ってごっこ遊びをしたり、玩具を組み立てたり、集団の中で子ども達同士が相談し合えるような場を持つように環境作りや、職員からの声をかけるタイミングを工夫している。また、好きな遊びを選べる中で自分の気持ちを友だちに伝えて遊びを広げることができるよう見守りながら援助している。</p> | | |

| | | |
|---|--|---|
| 第三者評価結果 | | |
| 【A9】 | A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | b |
| <p>園内は、バリアフリーで障害者用トイレとエレベーターが設置されている。室内では動きやすい環境を作るため、足元に玩具などがないようにし、また玩具が散乱しないようにコーナーを分けている。</p> <p>・クールダウンが必要と思われた時は、押入れをひとつの室内とみなして使用したり、テント風なものを作り職員が近くで見守りながら支援している。活動の中では、職員は子どもに寄り添い、興味を示したことややりたい気持ちを大事にして取り組めるようにしている。</p> <p>・個々の指導計画は3か月ごとに作成し、成長に合わせて他の職員とも話し合いながら作成し情報共有・周知している。また、家庭とも連携を取り、専門機関と話をしたり、様子を見に行く機会を持っている。個別支援計画の変更時は、保護者に伝え情報共有することが望まれる。</p> | | |

| | | |
|---|--|---|
| 【A10】 | A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況については、職員が「登降園チェック表」を使って引継ぎを行っており、お迎え時には保護者に子供の様子を口頭で伝えている。毎月の計画の中に、その月の延長保育の計画を入れ込み、季節によって配慮することなどを職員間で周知・共有している。 ・ブロック遊びの場所や絵本を読む場所にクッションを置いて落ち着いて過ごせるコーナーづくりなど、動と静の時間を大切にしながら、その中で子どもたちが主体となって取り組める環境や時間を作っている。 ・年齢が異なる合同の時間は小さい子に配慮して、危険のないように玩具を見直したり、さらにスペースを確保するなど、環境の見直しを行っている。 ・食事やおやつはすべて手作りのものを提供し、長時間保育の子には特に一日の食事内容の把握に努め、配慮している。 | | |
| 【A11】 | A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児の年間指導計画の中に小学校との連携を盛り込み、就学を見通した計画に基づいて保育活動を実施している。例年は近隣小学校の行事見学、小学1年生との学校での子ども間交流、小学校教員との連絡会や懇談会への出席など、小学校との連携を図っている。（2020年度は新型コロナウイルス感染予防の一環として訪問を中止している。） ・小学校への見通しが持てるように、運動会時に小学校の体育館を借りたり、小学校近辺を散歩して友達と共通の会話をすることで、就学への期待を膨らませるよう努めている。また、折に触れて小学校の事を話題にしたり、話し合う場を設けている。 ・保護者にはおたよりや懇談会の資料、保護者同士の話し合いなどで見通しを持てるようにしている。また、不安に思う時には都度話をする機会もち、保護者支援に努めている。 ・保育要録は小学校へ届けている。また、必要に応じて小学校側と電話で情報共有を図っている。 | | |

A-1-(3) 健康管理

第三者評価結果

| | | |
|---|---|---|
| 【A12】 | A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康観察に関するマニュアルに基づいて、朝の受け入れ時には登降園チェック表を用いて子ども一人ひとりを視診し健康状態の把握に努めている。子どもの体調悪化やけがなどについては、必要に応じて保護者に電話で報告し、降園時に口頭で直接状況を伝え、保護者と降園後の対応を話し合い、翌朝確認している。 ・SIDSについては毎年の懇談会で保護者に説明を行い、職員のSIDS研修は園内研修で年度初めに本社のマニュアルを使って行っている。また、アレルギー対応のエピペン講習を積極的に受け対応ができるよう取り組んでいる。 ・保健だよりを作成し、保護者に健康についての情報提供を行っている。 | | |
| 【A13】 | A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断と歯科検診を年2回実施している。（2020年度は新型コロナウイルス感染予防の一環として歯科検診は年1回となっている。）検診の前にはお知らせの手紙や掲示や声かけをし、なるべく全園児が受診できるようにしている。検診前に園だよりや送迎時に口頭で聞きたい事がないか尋ね、出された質問は検診時に医師に確認し、保護者に検診結果と一緒に医師の回答を書面に記入し、口頭でも伝えている。また、必要に応じて受診を促している。 ・健康診断の結果は健康台帳や健康記録にも記入し、健康の記録を保護者に渡すと共に、口頭でも伝えている。 ・健康診断や歯科検診の結果を踏まえて、どちらも食事面を大事に考え、年齢に応じて言葉やイラストなどで伝え、子どもたちに指導している。また、歯みがきもより丁寧に行えるように、歯みがき指導を歯科衛生士が行っている。 | | |
| 【A14】 | A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応は、事前に医師の指示書、保護者の除去食提供依頼書に基づき保護者、園長、栄養士、担任の4者面談を実施しアレルギー状況の把握を行っている。その面談をもとに栄養士が個別献立を作成し、内容確認も4者で行ったのち除去食の提供開始して安全に配慮するとともに保護者との情報共有を図っている。毎月、次月の献立表を個別に作成し、保護者と一緒に確認、押印することで確認して実施している。 ・アレルギー対応マニュアルがあり、給食時はそれに添ってメニューの伝達、除去食品伝達などを行っている。提供時はアレルギー児とその他のテーブル、食器の色やトレイを分け、喫食前に園長、栄養士、担任でアレルギーチェックを行い事故防止に努めている。 | | |

| A-1-(4) 食事 | | 第三者評価結果 |
|--|--|---------|
| [A15] | A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年間食育計画を作成し食事のマナーや、食への興味、関心を高めるための食育活動を実施している。提携農園からの少し変わった野菜の定期的な配送により、スーパーであまり見かけないカラフルニンジン、ロマネスコ、聖護院大根などの野菜に触れる機会をつくり、食材への関心を持てるよう取り組んでいる。 ・3、4、5歳が給食を食べるランチルームは給食室の隣にあり、毎日の給食にどんな食材が入っているのかが分かるように3食品群を作って色分けして掲示し、食への関心を深めるような取り組みを行っている。また、毎月絵本の世界観を取り入れた絵本給食を行い、絵本に登場した動物の型抜きでご飯の盛り付けをするなど、食事が楽しめるよう工夫している。 ・食事は無理強いないせず、とりわけ皿を付け子供によっては量を減らすなど、一人ひとりの配慮を行っている。また、苦手なものは声掛けをしてたべられるものが増えるように援助している。 | | |
| [A16] | A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・毎月給食会議を行い、各クラスの喫食状況の把握を行い献立の作成に役立てている。栄養士が実際の食事の様子を見に行き各クラスの食べ進みを確認したりしている。また、各クラスで1日の喫食状況を書くノートを用いて担任が喫食状況や食事の様子などを記入し、栄養士はそれを確認して次の献立の変更や改善に活かしている。 ・毎月、日本の郷土料理、世界の料理、を取り入れ、又野菜、魚、果物の旬を考慮した献立を作成している。また、リクエスト献立を設け、毎月各クラスでよく食べるものや希望のメニューを献立に取り入れ、より食に親しめるように楽しめるように工夫したり完食へ繋がるよう取り組んでいる。 ・保護者には毎月給食だよりをコドモンにて配信し、季節に添った栄養の摂り方や園で行う食育活動などを伝えている。 | | |

A-2 子育て支援

| A-2-(1) 家庭との緊密な連携 | | 第三者評価結果 |
|---|--|---------|
| [A17] | A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保育の意図や保育内容について、1か月の目標を玄関のホワイトボードに掲示し、日々の活動をクラスの入口の壁にドキュメンテーションで貼りだしたり、ブログや登降園時の声掛けなどで理解を得るように努めている。また、連絡ノートは毎日記入し保護者と園との交換日記のように情報交換を行っている。 ・懇談会では子どもたちの取り組みを伝え、毎月クラスごとにおたよりを作成して、コドモンによる配信を行いクラスの様子などを盛り込み保護者に伝えている。幼児クラスは日々の活動を写真や文章を入れてファイリングして絵本ルームに置き、いつでも見れるようにしている。また、保育参加を年2回行っている（2020年度は新型コロナウイルス感染予防の一環として中止している。） ・連絡帳や個人ノートまたは口頭で知れた情報も、毎日の昼の会議の際や園内職員用の連絡ノートを使って書面等に記入し、職員間での共有周知を図っている。 | | |
| A-2-(2) 保護者等の支援 | | |
| [A18] | A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔での明るい対応を心がけ、特に降園時には保護者に声かけをしてその日の子どもの様子を伝えるようにしている。（2020年度は新型コロナウイルス感染予防の一環としてひかえめにしている。）また、法人が定めた各種マニュアルに基づき、安全で安心する保育を心がけている。 ・年2回の個人面談以外でも、必要に応じて面談の時間を設け保護者とゆっくり話をする機会を作っている。相談を受けた際は、一緒に対応を考えたりアドバイスをし、必要に応じて一人で対応するのではなく、園長・主任からの助言を受けられるように体制を整えている。面談を行った場合は記録に残し全スタッフが周知できるようにし、事務所で管理している。 | | |

| | | |
|--|---|---|
| 【A19】 | A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝の視診で各クラスの職員が子どもの表情や体調を確認し、気になる事があればその場で保護者に確認し更に保育士間での共有を図っている。また、着替え時などにアザや怪我などを見つけたときは写真を撮り記録に残している。 ・虐待の恐れがあると判断した場合は、速やかに全職員で情報共有して対応し、行政の関係機関に連絡が取れるようフローチャートや関係先の電話番号リストを事務室内に掲示している。 ・保護者との関わりで気になる発言などがあれば、積極的な声かけや面談に繋げ、子育てなどの不安を解消すべく悩みや話を聞きアドバイスやフォローを行い、援助している。 ・虐待防止マニュアルが整備されており、マルチリートメント研修も合わせて定期的に研修を行い知識の向上や共通理解に努めている。 | | |

A-3 保育の質の向上

| | | |
|--|--|---------|
| A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価） | | 第三者評価結果 |
| 【A20】 | A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている | a |
| <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに法人指定の自己評価シートに目標等記入し、年度末には自らの保育実践の振り返りを行い園長との面談交えて保育の見直し改善を行っている。 ・クラスごとの職員の話し合いを通して4半期ごとに年間計画の評価を行い、月案、週案の振り返り、日案では日誌で反省を記入することで互いの学び合いや意識の向上、ひとりでは気づけなかった保育の良さや課題の確認、さらに保育の改善や専門性の向上につなげている。 ・行事後には振り返りを行い、保護者の意見も取り入れ改善点や失敗した経験などを会議で話し合い、意見交換する事で互いの学び合いや意識の向上につなげ、次の計画に反映している。 | | |